

Q 「活断層型」の特徴は？

ニュース・知っ得

最近の主な地震	
活断層型	阪神大震災 (M7.3) 1995年、震度7 死者6434人
	新潟県中越地震 (M6.8) 2004年、震度7 死者68人 新幹線が脱線
	熊本地震 (M6.5) 2016年、震度7
海溝型	十勝沖地震 (M8.0) 2003年、震度6弱 死者1人
	東日本大震災 (M9.0) 2011年、震度7 死者・行方不明者 1万8000人以上 福島第1原発事故

熊本県で震度7の地震がありました。
Q 大きな揺れだね。
A 地震の規模を示すマグニチュード(M)は6.5と中規模でしたが、震源の深さが11キロと浅かったために、震源に近い地域で震度7と大きな揺れになりました。震度7を記録したのは1995年の阪神大震災、2004年の新潟県中越地震、11年の東日本大震災に続く4例目です。
Q どんな地震？
A 地震には、大きく分けると内陸の活断層が動く活断層型と、地表を覆う厚いプレートの境界付近で発生する海溝型があります。今回は活断層型です。
Q 活断層って。
A 地下の地層の中に力が加わってきた割れ目のことを断層と呼びます。このうち過去数十万年以内に繰り返し動き、将来も動く可能性があるものが活断層です。今回の地震は、活断層が南北方向に引つ張られ

A 局地的に激しい揺れ

て動いた横ずれ活断層型です。
Q 東日本大震災を起こした地震と仕組みは違う？
A 東日本大震災は、太平洋プレートが陸側のプレートの下に沈み込んで起きた海溝型で、熊本地震とは異なります。活断層型地震には、阪神大震災や新潟県中越地震があります。海溝型は津波を伴うことがあるのに対し、内陸で起きる活断層型は基本的に津波が発生しません。しかし私たちの足元で起きるため、地震の規模が小さくても局地的に激しい揺れとなり被害が拡大する恐れがあります。熊本地震では震源近くの狭い範囲で震度7を記録し、揺れは震源から遠ざかるにつれて同心円状に弱くなりました。
Q どの断層が動いたの。
A 政府の地震調査委員会は、震源付近にある二つの断層帯のうち長さ約81キロの「日奈久(ひなぐ)断層帯」の北側がずれた可能性が高いという見解を示しました。また、国土地理院は、地下の断層が長さ18キロ、幅10キロにわたって60センチずれたという解析結果を発表しました。
Q 余震が多いね。
A 地震が発生すると岩盤が不安定な状態になり、それを解消するために余震が起きます。特に活断層型地震で震源が浅い場合は、余震が多くなる傾向があり、今回も本震から半日間で震度1以上の余震が100回以上発生し、震度6弱や6強と強いものもありました。急斜面に近寄らないなど、引き続き警戒が必要です。

2016年4月16日 朝刊

①活断層型と海溝型の違いを書きましょう。

②余震が多い理由を書きましょう。

年 組 名前

(小学校高学年・中学校・高校 理科・総合)